

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470301108		
法人名	有限会社アルファルファアンドカンパニー		
事業所名	グループホーム太陽の家		
所在地	三重県鈴鹿市西條町495番地の1		
自己評価作成日	平成23年7月12日	評価結果市町提出日	平成23年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470301108&amp;SCD=320&amp;PCD=24">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470301108&amp;SCD=320&amp;PCD=24</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 23 年 7 月 29 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑い、喜び、愛情をモットーに自由で縛りのない生活を支援しています。個人の生活歴を大切に、認知症があってもできることは沢山あることを認識してもらい、自信を持って生活してもらえるよう努めています。また、日常生活の中で皆で助け合って生活する場面が多く、非常に笑い声が多い環境にあります。特別大きな催しや取り組みは行わずとも、家事などを通して自発的な役割認識やささいな日常会話での喜びや笑いの積み重ねが、太陽の家で生活していることの喜びに繋がると信じています。今後もそのようなことを大切に、日々笑いや喜び、悲しみなどの様々な感情を共感できるような生活の場にしていきたいと考えています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階が通所介護、2階に1ユニットのグループホームがある併設型の事業所である。代表者の自宅が事業所に隣接して建てられておりいつも心強い。開設7年目になり利用者の要介護度が重くなってきているが、出来る限り日常生活の自立を目指して職員の思いと利用者の協力で明るく生活している。交通量の多い中央道路に面した建物であるが、裏庭伝いに裏通りに出て田んぼの道を毎日散歩している。利用者の希望を出来る限り取り入れ、自由に生活している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し常に共有できるよう意識し実践している。	「地域に密着した尊厳ある生活を支援する」という理念のもと、職員が一丸となって支援している。また、運営理念として細部にわたり解りやすい文で作成した理念も掲示してある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して地域住民からの様々な情報提供や事業所からの日常生活の様子などを近況報告することにより地域への理解を求めている。	近隣は商業施設であるが、散歩や買い物に出かけてつながりを持つようにしている。代表取締役が自治会に加入しているため、盆踊りや石取り祭りの呼びかけがあり参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 <a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470301108&amp;SCD=320&amp;PCD=24">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470301108&amp;SCD=320&amp;PCD=24</a>	介護相談会を開催し、家族や地域住民との交流の機会が持てるよう啓発活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で近況報告を行い、その中での課題について出席者から助言をいただく場面も多い。必要なことは日常生活の中で反映できるよう努めている。	今年度から2カ月に1回の開催をしている。地域包括支援センターの報告やアドバイスは他の出席者にも参考になると喜ばれている。会議の意見は職員と話し合い、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者にも出席してもらい近況報告や助言をいただき連携を深めると共に事業所の理解を求めている。	介護保険の更新手続きや実績報告に市に出かけた折には、運営や利用者の対応について相談したりして連携をもっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておらず、やむを得ず行う場合は家族に書面にて同意をいただいている。また同時に実施の記録を残している。	2階での生活である為、エレベーター前には危険防止のためセンサーがとりつけてある。しかし、階段で降りるドアには鍵はかけていない。身体拘束をしないケアの研修を会議にとりいれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止等のマニュアルを基に周知徹底を促している。また、意図的ではないにしても虐待に類似する行為が疑われる場合にはその都度指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人との連絡調整は基本的に管理者が行っているが、日々の業務の中でその位置付けや役割などについて話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には書面にて説明を行ったうえで納得してもらった上で同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族宛てに利用者の近況について文書を以ってお知らせしている。また、面会の際に家族からの要望を聞き、話し合った上で実践可能なことは実践している。更には文書で報告した内容が面会の際の話題となり連携はとれていると思う。	利用者の自治会を組織して、食事や散歩などについて話し合い反映している。家族には利用者の状況の手紙から、意見を言いやすいように環境づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員から代表者へ自己評価表を提出するようなシステムをとっている。その中に毎月職員自身の目標を掲げ、その達成度を自身で評価する。それに対して代表者からの助言等を記載しフィードバックすることで意見交換を兼ねている。	職員会議で話し合い管理者で解決出来ることは決定、出来ない場合は代表者に報告し運営に反映している。スタッフルームの椅子を夜間休めるような安楽椅子に取り換えるなど反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に現場の状況を踏まえて必要以上に口を出さず管理者や職員が自立心を高めていけるよう配慮している。また個々の家庭環境にも配慮し急な欠勤などにも対応できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型サービス連絡協議会主催の研修に参加し知識、技術の研鑽に努めている。また事業者内での研修を開催し自由に参加できる体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会などの研修への参加や他事業所が行っている取り組み等を発信、伝えることで、新たな取り組みや活動へのステップとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に利用者の要望や状態を確認、把握し全職員にも周知徹底させた上で住み替えによるダメージが極力大きくなるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で事業所の方針や注意事項を説明、同意してもらい、面会に来やすい環境作りや信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体、精神状態を把握した上できちんと同意を確認してから支援するよう努めている。当面は環境に馴染んでもらうことを最優先に職員や他の利用者にも協力を求めながら支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症がありできることは減ってはいても、今できることを模索しながら家事などを行ってもらう環境を作っている。その中で利用者同士が助け合い、お互いのできない所を補いながら生活している場面が頻繁に見受けられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙を通して状況を理解してもらうよう努めている。また、面会にきてもらった時には積極的にコミュニケーションをとるように努め、かたい話ばかりではなく世間話も交えながらお互いに意見が発信しやすいような環境を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に行うことができ、電話や手紙のやりとりも自由にできる。手紙を書く際には、字の練習から一緒に行い、サポートしながら目的が達成できるように努めている。	市内の祭りに出かけて、以前住んでいた商店街の人達と懐かしく話し交流している。また昔住んでいた場所の近辺の地図づくりをして、一緒に昔の生活を話し合い、馴染みの関係を継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共用のリビングで自発的に過ごし、その中で関わり合いながら生活している。毎朝散歩に出かけているが、その日の体調や気候に応じて自分たちで散歩ルートを決め極力職員は口を出さないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も運営推進会議に第三者という立場で出席をしてもらい、家族とは違った視点での助言や協力をいただけるよう関係の保持に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月1回利用者だけの自治会を開催し、会議の中で日頃の要望や今後の希望などの意見を収集できるよう努めている。自発的な発言や意志表示ができない方についてもその都度こちらからの発信は行っている。	利用者に対して職員の担当制をしいている。言葉や表情などから、細かく思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に過去の生活歴を確認、把握しサービスに反映できるよう努めている。また、情報が不十分なことについては家族から聞き取ったり、日頃の会話の中で情報を収集するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特に決まったスケジュールはない。また、入浴は毎日あるが希望や状態に応じて入らないこともできる。また食事についても状態に応じて時間をずらすなどして柔軟に対応。また、家事や散歩を通じて機能訓練や認知症の遅延に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々状態が変化するので申し送りノートで対応を統一したり、日々の業務の中で職員同士が話し合い、意向確認ができるように努めている。またそれを介護計画に反映している。	職員は担当利用者の「課題抽出表」を作成して、それをもとに会議でカンファレンスをおこない、計画書に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日個人記録の中に記入し、処遇についての申し送りを職員間で行っている。交替職員が情報を共有できるように、日誌と口答にて順次申し送りできるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて必要な支援を提供している。遠方の施設に入居している姉妹に会いたいという希望があった際には、他の利用者と共に観光を兼ねて出向き面会が実現できるようにしてきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の場で民生委員等に社会参加への促しや地域の行事案内などの情報を提供していただき、事業所で生活しながらも、その提供された情報を今後の活動にいかせるよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に認知症に精通したかかりつけ医と連携をとり往診や緊急時の対応も含めその都度相談している。また、整形外科、歯科、救急指定病院とも提携し速やかに処置が受けられるよう連携をとっている。	近くの神経内科クリニックを主治医として受診に同行している。日常から連携をとり、緊急時の対応についても話し合いが出来る。他科受診は家族の同行をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護師と常に連携をとり、情報が共有できるよう常にコミュニケーションを図り、報告、連絡、相談を徹底している。また看護師という専門的観点から介護職員への適切なアドバイスを行ったり、必要事項は日誌の中に記録している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、定期的に面会に行き状態の把握に努めると共に病院の看護師や必要に応じて主治医との意見交換に努めている。また、家族に対しては入院時の在籍状況や入院中の取り決め等について説明を行い理解が得られるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤した場合及びその可能性が疑われる場合は主治医の意見を参考に家族と話し合いを持ち、当面の対応や確認事項について文書を以って同意を得ている。また、必要に応じて終末期の支援計画を提示し、家族に説明した上で実践及び円滑な支援が行われるよう努めている。	主治医に相談し、助言を受け、重度化の可能性のある家族と話し合いをして看取りの指針をとるようにしている。事業所の体制についても検討をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、緊急時のマニュアルを作成し常に目にとまる場所に掲示または閲覧可能な状態になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。運営推進会議の中で地域の民生委員や隣接する商業施設に協力を依頼している。また、避難経路を掲示し速やかに避難できるよう努めている。	避難訓練は年2回実施している。代表者が、三重県地域密着型サービス協議会の役員であり鈴鹿支部において、昨年10月17日に「防災の日」と設定して一斉に訓練を行い防災意識を高めた。	東日本大震災後、職員による勉強会を持ち訓練に役立てているが、日頃からの訓練が身につくことであり、今後も様々な想定訓練をお願いする。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴など、特に配慮が必要な場面ではカーテンや扉などでプライバシーが確保されるよう配慮している。また、突然個室に入室するのではなくノックをするなどし、1人になれる空間や時間も大切に考えている。	馴れ合いから本人の尊厳を無視した対応にならないよう努めている。呼び名に「ちゃん」づけはしないなどミーティングで話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や要望、意見が発信、集約しやすいよう毎月1回利用者のための自治会を開催している。その中で食べたい物や行ってみたい場所、日常生活上の希望や不満を自発的に言いやすいような場になるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間は決まっているがそれ以外に決まっている予定はない。入浴は基本的に毎日行っており午後をその時間に充てているが、入るか否かは個人に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝起床時に整容を行っており、身だしなみには配慮している。洋服の選定も見守りながら個人の選定に任せている。また、誕生会などの催しの際には化粧をしてもらうなどして日常とは違った雰囲気味わってもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は基本的に業者委託しているが、月に1度は利用者と職員と一緒に調理をする機会を持っている。事前に計画書にて、準備段階からそれぞれの役割分担を明確にし、円滑に準備や調理が行われるようにしている。	1階の通所介護で業者委託で調理している。時間になると、エレベーターで運ばれる。運ばれた食事は利用者が手伝って配膳される。食事前には全員揃って今日のメニューを確認し、楽しい食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容は全員同じ物が提供されているが、嚥下や咀嚼状況に応じて食事形態を変更し、またトロミ剤などを使用するなどして個人の状態に合わせた。体型や採血結果などから医師の指示の基に米飯の量なども微調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔洗浄を実施している。意志の自己決定ができる方に関しては促しを基本姿勢としているが、やりたくない方には強制はせず、その後自身で行っている。義歯の方は就寝前にポリデント消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に応じてオムツ類を使用しているが、極力オムツ内で排泄しなくて済むよう時間をみてトイレでの排泄を促している。便通表にて1日の排泄状況を把握し、個人の状態に合わせてトイレ誘導などを実施している。	利用者に応じた誘導を行いトイレで排泄出来るように支援している。居室にトイレがあり便利で使いやすいトイレである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現在下剤を服用している方はいない。毎朝バナナジュースを飲むことで定期的な自然排便がなされている。また、全員ではないが毎朝散歩に出かけておりスムーズな排便ができるよう運動も促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助が必要な方が多いことから職員の人員体制が確保される午後に行っている。機会は毎日の入浴が可能である。バスタブや入浴剤などを使用し入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。	毎日入浴を実施している。重度化された利用者も職員2人体制で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行動は強制せず自由に居室で休んでもらえるようにしている。短時間の昼寝は必要な方もみえることから闇雲にこれを制止する必要もなく、本人のリズムに任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は一括で職員が管理している。処方箋は個人ファイルに綴じており職員全員が服薬状況について把握している。処方された日付け、処方期間等を記録に残し、管理を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等を分担し、個人の役割を毎日の反復にて認識してもらえるようにしている。過去の生活歴にて得意であった分野の家事等が発揮されるよう体調や気分と相談しながら行ってもらえるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部の利用者は毎日散歩に出かけている。一人では行けない方は体調をみながら交代で散歩に行けるよう努めている。また、運営推進会議の中で地域の催しなどにも誘いをいただき参加できるよう検討している。また地元開催の祭り等についても同様に検討している。	毎日散歩に出る利用者もあり、重度化している場合でも交代で出かけた。夏場は近くの大型スーパーに行き気分転換も兼ねて散歩をしている。また家族も一緒に温泉に出かけたこともある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理は職員が行っているが、小銭などは個人で管理されている方もいる。買い物に行った際には自分で支払い計算できるよう傍らで職員が見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階に設置してある公衆電話を自由に使える環境にある。希望がある場合には操作などについてわからなければ職員が行う。また社内電話に外線があった場合は、とりつぎも行い居室などで話しをしている方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場はベランダにすだれをかけたり、風鈴にて季節を感じてもらえるよう配慮している。また、朝方や午前中など比較的涼しい時間帯は窓を開放し、気温が上昇してきたらエアコンにて空調管理を行っている。その時に応じて音楽の種類を変える等して雰囲気マンネリ化しないようにしている。	食堂兼居間は南側に面した明るい部屋である。暑さ対策にすだれが掛っている。室温の調節に気を使っている。廊下の壁には写真や壁新聞が掲示してある。廊下の一部には腰かけ式のタタミスペースがありくつろぐ事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の座席指定はしておらずその時の気分で座る場所も自由に選んでもらっている。また廊下に座談スペースを設け用途は特定していないが一人になったり、柔軟体操をするなどのスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時及びそれ以降に本人が自宅で使いたたンスや日用品を持ちこんでもらっている。ベッドは基本的に持ち込み可能であるが、身体状態によってはギャッジアップ機能が必要な方もみえるのでその場合は家族と相談の上了承してもらう。	居室の広さが4段階あり、白色で統一された落ち着いた部屋である。エアコン、押入れ、洗面台、水洗トイレが備え付けであり、他は自由に持ち込んでいる。それぞれ好みの飾りつけがしてある。	それぞれの居室に備え付けのトイレが設備されて、カーテンで仕切られている。ただ、使わないとき、カーテンが開けっ放しになっているのが気になるところで、工夫されることを期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーで段差等の障害物はない。居室には個人名や写真を掲示。また施設色が濃くないよう食事の座席には名札等も置かず、目印になる座布団やそれに代わる物でさりげなく自分の場所であることがわかるようにしている。		